

# 研究年報／2009年版の発刊にあたって



電力中央研究所理事長  
各務 正博

近年、地球温暖化に対応する新たな技術として、風力や太陽光による発電、あるいは電気自動車などへの関心がますます高まってきております。今年に入って、日本政府も次々と高いレベルの温室効果ガス排出削減目標を公表しています。一方、原油価格の動向をみても、エネルギー資源の供給は依然として不安定な状況にあります。

このような背景のもと、電力中央研究所では、「エネルギーセキュリティの確保」と「地球環境問題への対応」を当面の最重要研究課題として掲げ、将来の電力供給の姿を見据えながら、エネルギー関連の広範な分野にわたる総合研究機関として研究活動を行っております。

今般、平成20年度の主要な研究成果を中心に、この『研究年報』を取りまとめました。この中には、太陽光発電等の導入に備えた電力系統技術、発電所におけるCO<sub>2</sub>回収技術、CO<sub>2</sub>排出削減技術オプションの評価等々に関するものなど、低炭素社会を指向した研究成果が含まれております。また、地震規模評価や送電設備の雷リスク評価、原子炉燃料の高燃焼度化に向けた技術など、電力の安定供給を通じて私たちの生活の安心を支える多くの研究成果もあげることができました。

ご高覧をいただき、当研究所の活動により一層のご理解をいただくとともに、ご意見を頂戴できれば幸に存じます。